

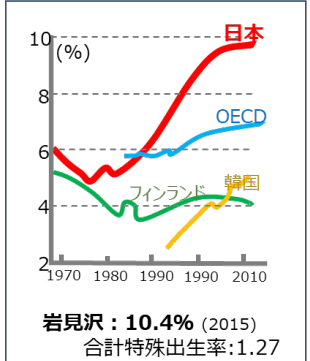
岩見沢市における母子健康調査

北海道大学大学院 医学研究院 玉腰 暁子

背景と目的

- 日本は、低出生体重児が10人に1人とOECD加盟国で2番目に高い。低出生体重児はDOHaD（Developmental Origins of Health and Disease）の中で、成人期の健康にまで影響を与える要因と考えられている。妊婦の「痩せ志向」に起因する栄養不足がその一因であり、低出生体重児に関する啓発、妊娠期の母子の栄養・生活改善は喫緊の課題である。
- 本取り組みは、少子化の課題解決に向けて、岩見沢市市民とともに“母子に一番優しいまち”を目指しており、2016年より開始した、世界に類を見ない、妊産婦から出産、子育てを継続的にフォローする「母子健康調査」がその核となっており、市民、市のボランティアで構築、低出生体重児減と母子の健康を守る知見の探索を行っている。

日本は、
低出生体重児が10人に1人



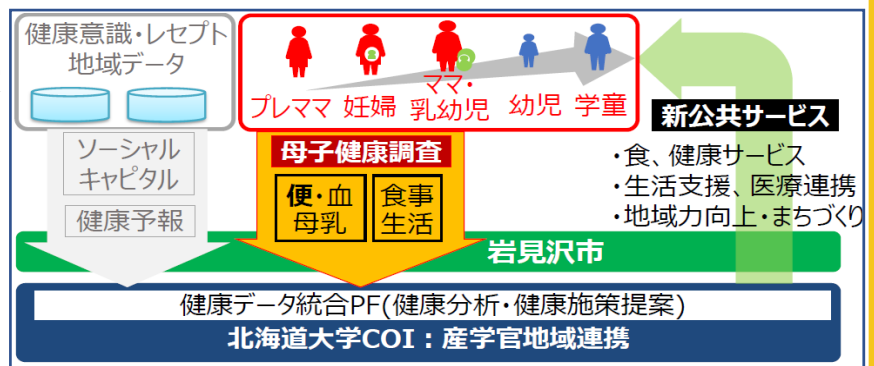
(資料) Health at a Glance 2013, OECD.Stat (2014.7.15 OECD Health Statistics)

成果

- 母子健康調査は、産官学が連携して妊産婦から出産、子育てを継続的にフォローする調査であり、**低出生体重児減を実現した（2015年10.4%→2019年6.3%）**。低出生体重児低減により発達障害低減、将来の疾病リスク低減が期待される。
- 妊婦と出生児それぞれの食や生活習慣、生活環境などの調査を行い、妊娠から出産、子どもの成長の各段階で血液や尿、臍帯血、母乳、便などを採取して分析し、母と子どもの健康を守る知見を見出している。調査をきっかけに健診受診率の向上や生活習慣の改善など、妊婦の行動変容を促してきた。
- 母子に最適なケア、サービス提供のため、母子健康調査のデータを活用し健康データ統合プラットフォームを構築。この仕組みを活用しテラーメイド型リカーリングサービスを実現した。

【受賞】

- オープンイノベーション大賞
日本学会協議会長賞（2020）
- プラチナ大賞
大賞・総務大臣賞（2021）
- 健康寿命をのばそう！
アワード（母子保健分野）
厚生労働大臣賞（2021）



今後の展望

今後は北海道、日本の社会課題である少子化の克服をめざし活動を開始する。妊娠前の若者の健康意識を高め、こころの問題を解決するために“プレコンセプションケア”が重要である。

「こころとカラダの健康、他者（ひと）と一緒に自分らしく生きることができるライフデザイン」が可能な社会をめざし市民、地域、企業、大学連携で進めていく。